

Der Wind

(風)

湘南日独協会

Japanisch-Deutsche Gesellschaft in Shonan

事務局: 〒251-0025 藤沢市鵠沼石上1-1-1

江ノ電第2ビル7F

TEL: 0466-26-3028 FAX: 0466-27-5091

E-mail: jdgs@jcom.home.ne.jp http://jdgs-shonan.ciao.jp/

読書の秋

猛暑の夏も過ぎ、爽やかな秋となったので、若い頃読んだ本をもう一度読み返してみました。レフ・トルストイの「戦争と平和」(1869年)です。ご存じの通り、1805年から1813年にかけてのナポレオンのロシア遠征とそれを迎え撃ったロシア貴族と、否応なく戦争に駆り出されたロシアの農民たちの物語です。読み返してみて、新たな疑問が湧いてきました。

第一に、ナポレオンがロシアに侵攻した積極的な動機がはっきりしないのです。強いて言えばフランス革命を成功させ、近隣諸国に大きな影響力を得たナポレオンのさらなる征服欲が主な動機なのでしょうが、一人の男の征服欲が何千人の貴族と何十万人の兵士と莫大な資金を動かすことができるのでしょうか。英雄の知性は欲望を抑制できなかったのでしょうか。

第二に、仏・露両国の将兵は互いに命を賭けて戦うのですが、ロシア人であるトルストイの文章からは、それぞれの戦争当事国の兵士たちが自ら納得できる「戦の正当性」という意識を持っていなかったと読めるか所が多々あります。人間の知性が一時的に鈍化する好例でしょうか。

第三に、1812年の冬、ロシアはモスクワ防戦を諦め、市内に火を放って明け渡すのですが、ナポレオン軍は焦土と化したモスクワで食と暖が取れず、やむなく退散します。ロシアはそれを一切追撃することなく、傍観していました。積極的な敵意がもともとなかったのでしょうか。

現代でも、地球上の至る所で小規模国際紛争は現実起きています。資源奪取のための領土拡張、陰湿な敵対感情、大量破壊兵器の開発など戦争の原因となる要素はいくつも挙げられますが、きわどいバランスで大規模戦争は避けられています。今後、ますます人間の知性の働きが重要になる時代が来ることでしょう。(松野 義明)

湘南日独協会の行事予定

■Schwatzerei am Stammtisch 第25回

テーマ: „Glücklich sein“ in Japan und in Deutschland

幸せとは?

日時 11月14日(月) 15:00~17:00

会場 藤沢商工会議所ミナパーク5階

会費 1,000円

■Singen wir zusammen! 歌で楽しむドイツ語第44回

テーマ: Weihnachtslieder (クリスマスの歌)

日時 11月20日(日) 15:00~16:30

会場 藤沢商工会議所ミナパーク5階

会費 1,000円

■11月例会 講演会

「子供のQOL (Quality of Life) と主張性」

—日本とドイツの比較から—

講師 柴田玲子氏 聖心女子大学文学部心理学科
准教授 著書「子どものQOL尺度、その理解と活用」を編集著作、また昨年、上記内容に関するアンケート実施

日時 11月27日(日) 14:30~16:00

会場 湘南アカデミア7階

会費 1,000円

懇親会「宗平」会費 4,500円

■2016年望年会

美味しい料理とイタリアワインを賞味しつつ、来し方未来を大いに語り合しましょう。会場は協会の貸し切りです。本年の新入会員の皆さん、是非ご参加ください。

日時 12月25日(日) 15:00~17:30

会場 イタリア・レストラン (Portovino)

☎0466-26-7885

JR 藤沢駅南口から徒歩5分、ビル・ロコテラス湘南の地下一階

会費 5,000円

新入会員紹介

(敬称略)

Prof. Dr. Josef Kreiner(ヨーゼフ・クライナー)名誉会員

船木 健

橋本和歌子

長谷川孔一郎(学生)

内藤綾音

■Schwatzerei am Stammtisch 第26回:

日時 1月10日(火) 15:00~17:00

会場 藤沢商工会議所ミナパーク5階

会費 1,000円

■Singen wir zusammen! 歌で楽しむドイツ語第45回

日時 1月22日(日) 15:00~16:30

会場 藤沢商工会議所ミナパーク5階

会費 1,000円

■1月例会 講演会

「日本の原子力発電のもう一つの道」

日本にこれまでなかったトリウム原子炉について
技術の専門家が解り易く解説します

講師 近藤英樹氏 (技術コンサルタント)

日時 1月29日(日)14:30~16:00

会場 湘南アカデミア7階

会費 1,000円

懇親会 会費・会場未定

■Schwatzerei am Stammtisch 第27回:

日時 2月17日(金) 15:00~17:00

会場 藤沢商工会議所ミナパーク5階

会費 1,000円

■Singen wir zusammen! 歌で楽しむドイツ語第46回

日時 2月19日(日) 15:00~16:30

会場 藤沢商工会議所ミナパーク5階

会費 1,000円

催し物情報

☆茅ヶ崎ゆかりの人物館

企画展「ラチエン“ワンダー”ストリート

通りと人にまつわる3つの物語」

期間 2016.10.1~2017.3.26

観覧料 200円

後援 ドイツ大使館、湘南日独協会

お問合せ: 茅ヶ崎市役所文化生涯学習課

☆

TEL 0467-82-1111

☆講演会「箱根の自然を守って50年」

11月23日(祭日) 13:00~16:30

神奈川県立生命の星・地球博物館

入場無料

お問合せ: 川崎英憲氏(当協会会員)

TEL 0460-85-8355 books@tbz.t-com.ne.jp

9月例会 講演

「ドイツ航空史と日本」を聴講して

会員 田中幹夫



田中幹雄氏

講師の藤野満氏は学生時代に
グライダー部に所属し、川崎重工
業に勤務していた1985年か
ら3年間英ロールスロイス社に、

1994年までIAE社でエアバス
のジェットエンジン共同開発・販売に参加しました。
また氏は英国で飛行免許を取り今も現役だそうです。

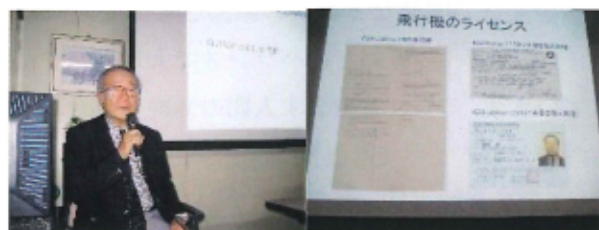
第一部(ライト兄弟と黎明期の飛行機)

1903年に動力飛行に初めて成功したライト兄弟
は自転車屋でしたが将来儲かるビジネスになると考え
飛行機作りに挑戦しました。彼らは設計に必要な各種
係数を正確に知るために、なんと「風洞」を自作して実
験を重ねました。エンジンはテイラーという技師が僅
か6週間で設計しましたが、エンジンブロックは当時
貴重だったアルミを使うなど斬新なものでした。彼ら
は製造より、国際特許を取得してこれでビジネスをし
ようとした。

ところでアポロ11号は月面にライト機の一部を持
って行ったそうです。何でも世界初が自慢のアメリカ
人らしいですね。

さて初飛行こそアメリカでしたが黎明期の飛行機は
欧州で著しく発展しました。1909年にはフランス
人ブレリオがドーバー横断初飛行を成功させ、ドイツ
では1910年頃には飛行機製造会社が6社もありま
した。

日本では1910年(明治43年)に日野熊蔵陸軍大
尉が独グラーデ単葉機で、また徳川好敏陸軍大尉が仏
アンリ・ファルマン式複葉機で代々木公園で初飛行を
しました。なお初の国産機は1911年に制作の「会式
一号機」で所沢航空発祥記念館に複製があります。



講演する藤野満氏と英国で取得した飛行免許証

(次頁へ続く)

第二部（大戦で進歩した飛行機と日本）

戦争は欧州の飛行機を一気に進歩させました。ドイツのBMWやダイムラーベンツの航空エンジン製造技術は世界のトップでした。

一方、日本は航空技術の遅れを日独同盟によりドイツから技術者を招聘して挽回を図りました。来日したのは30代の若き技師フォークトを団長とする6人でした。彼らに学んだ一人、川崎重工の土井武夫は三式飛行機「飛燕」を設計しました。エンジンにはダイムラーDB 601をライセンス生産して搭載しましたが、倒立V12気筒・機械式過給機付という最新エンジンは当時日本の工業力では作りきれず、故障続きでした。

高高度・高速飛行への更なる要求にピストンエンジンは応えきれず限界に来ていました。そして英国人ホイットルを先覚者とするジェットエンジンが登場しました。英国では1943年にジェット戦闘機グロスターミーティアが初飛行し、空軍向けに約3900機生産されました。またドイツでもBMW003ジェットエンジンを搭載したメッサーシュミットMe 262戦闘機が生産されました。日本は「橘花」が終戦直前の1945年8月7日に初飛行しています。搭載ジェットはBMW003をまねた「ネー20」ですが耐熱合金材料の枯渇によりやむなく代用材使用したため数十時間の耐久性しか有りませんでした。

第三部（戦後日本の航空機産業の復興）

YS-11は「YSじゅういち」ではなく「YSいちいち」と読むことを知りました。最初の1はエンジン候補番号、次は機体仕様案番号だそうです。この開発に登場する「6人の侍」は有名です。戦前の戦闘機等のエース設計者達一堀越（三菱）、太田（富士重）、菊原（新明和）、土井（川崎重）、木村（航研）に通産省赤澤航空機武器課長を加えた6人が開発の中心でした。しかし頑丈で耐久性がある反面、重く燃費が悪いなど評価は芳しくなく1962年の初飛行から182機で生産終了になりました。設計者が歳を取り保守的な設計になったのも一因との見方もあるようです。

さて半世紀ぶりの国産旅客機三菱MRJの売り＝20%低燃費は、新開発エンジンに鍵があります。タービンが効率の良い高速で回転する一方、ターボファンは周速を抑え更に大口径化を可能にするべく、両軸の回転数差を同軸減速機で吸収する斬新な設計です。

最後にホンダジェット。本田宗一郎は「飛行機のカブを作りたい」と言ったそうですがエンジンを翼上に配置したあっと驚く設計で小型ながら後部座席をしっかりと確保した魅力的なビジネス機に仕上がっています。

今回は飛行機発展の歴史を駆足で垣間見る事が出来ました。失敗を恐れず挑戦する「若い」技術者が航空史を塗り替える立役者だとの講師の指摘には全く同感でした。

以上

YS II



YS 11（日本国内航空）

三菱 MRJ



ホンダジェット



「私とドイツ」 (11)

病院体験より

会員 宇多綾子



宇多綾子氏

ハンブルク市内の Wandsbeck 駅から Stadtbahn に乗って Landwer 駅で下車5, 6分歩くと緑の木々に囲まれた閑静な場所にその病院は建っていた。

入り口上部にマリア像が置かれたカトリックの病院、Marienkrankenhaus。ここに何度通ったことだろう・・・。

1965年、ハンブルクでの生活が始まって間もなく私はそこに入院するはめとなった。特に痛いとか苦しいという病気ではなかったので、不安な気持ちよりもむしろ、どんな事が待っているのだろうかという好奇心の方が強く、まるでホテルにでも泊まるような気分であわわしたのを憶えている。

病室は清潔でゆったりとした二人部屋。担当医は英語堪能な長身の好男子で名前はなんと Dr. Braeutigam!! (花婿) 中年女性患者の憧れのドクターであった。

日本人の患者は珍しがられ、ドクターも看護婦さん達も実に親切で居心地がよく、ドイツ語辞書を枕もとに置いての会話格闘(?)も結構楽しめた。毎日の病院食は3段重ねの白い陶器の深物に入っていて、じゃが芋のこふき、茹で野菜、肉か魚のソテー等でおいしく、いつも残したことはなかった。時におかわりあるよ、といわれるとまた食べたので、Japanerin はよく食べると評判になっていたようだ。また、週に一度廊下で体重測定があり、大方のドイツ女性は60kg以上だったので、大柄な私としては引け目を感じないですんだ。夕方になると、聖歌隊の人が4, 5人廊下で聖歌を歌ってくれた。見舞客からの花は夜になるとすべて廊下に出す習慣になっていたのも、病院の夜の廊下は正にお花畑と化していた。特別室(多分お金持ちの婦人)の前の廊下にはいつも真っ赤なバラの花が所せましと並んでいてそれは見事な光景だった。

私の当地滞在は4年間だったけれど、事もあろうにその間4回も(出産時を含めて)病院生活を味わうことになったとは前代未聞でしょう。その度に新しいご婦人と同室になり、片言ながらも会話をして、ドイツ夫人の物の考え方、生活態度などを垣間見ることが出来た

のは貴重な経験であった。中でも一番最初の入院での同室パートナーはご主人が北ドイツ放送局(NDR)管弦楽団のコントラバス第一奏者であったことから、ハンブルク市のレベルの高いアマチュアオーケストラを紹介して下さり、退院してから毎週その練習場へ通いヴァイオリンパートと一緒に練習することができた。Musikhalle での2回の演奏会に出演したのも印象深い。そして様々な素晴らしい思い出のきっかけを作っていただいたことは生涯忘れられない。



この地での生活3年目にしてやっとの思いで授かったかわいい赤ん坊は、今や40代も半ばを過ぎるおじさんと相成った。

(左は20余年後に病院を訪れた筆者)

Deutsche Witze

ドイツ小話

Der Patient erwacht aus der Narkose und sagt erstaunt: "Herr Doktor, Ihr Bart ist aber gewachsen, hat die Operation denn so lange gedauert?"

"Erstens heie ich Petrus, und zweitens habe ich schon immer einen Bart gehabt!"

麻酔から覚めた患者が、びっくりして医者に訊いた、「先生、先生のお髭はずいぶん伸びましたねえ、手術がそんなに長くかかったんですか?」、それに答えて曰く、「第一に、わしの名はペテロだよ。第二に、わしは昔からずーっと髭を生やしとったよ。」

(注1) Petrus=聖ペテロはイエス・キリストの十二使徒の一人。天国の鍵を託されていて、やって来る死者を天国に受け入れ、しかるべき場所に案内する。

(注2) 患者は麻酔から覚めることなく、天国の門に辿り着いたというジョーク。

GKK

劇場便り その2

ブレーマーハーフェン 志賀トニオ氏

先日10月15日にバレエ“コッペリア”のプレミエがありました。私が初めて Musikalischer Leiter (音楽監督)を任されました。今回はその事の意味を、ドイツでの指揮者の伝統の紹介と共に解説したいと思います。

ドイツで指揮者になるにはコレペティトア兼指揮者という立場で仕事を始め、一段一段階段を登っていかねばなりません。指揮者！として最初に任される仕事は舞台袖の指揮です。例えばオペラ“ラ・ボエーム”では2幕の終盤でトランペット、ピッコロ、小太鼓を、オーケストラピットの音楽監督の指揮を横目で見ながら舞台袖で指揮し始め、そのまま彼等を導きながら舞台を横切る場面があります。この場面は指揮の経験の浅い若者にとっては十分な難所となります。

次に与えられるのがミュージカルの指揮。ミュージカルで難しいのは、場面転換が多い事。舞台が回転するタイミングを見て、音楽を始めたり、セリフを聞きながら、音楽を止めたりしなければなりません。つまり、ここで求められるのは、音楽の内容以前に、段取りをいかに確実につける事ができるか。新人指揮者はまずここまでの階段を登りきれるかが大事です。

これを登りきれば次はオペレッタです。これはミュージカル同様、場面転換が多い上に、音楽的にテンポの変化も多く、曲によってはオペラ作品よりも指揮をするのが厄介です。

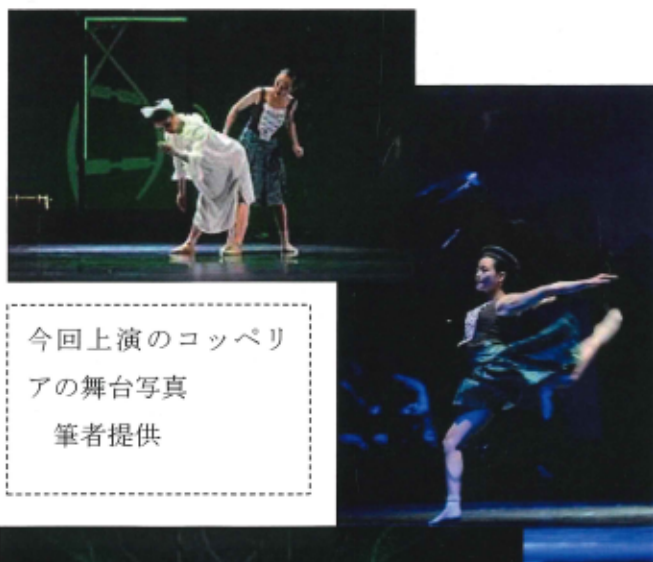
そしてその次に、バレエ作品。ここで重要なのは毎回ほぼ同じテンポで指揮をする事。言ってみればテンポ感が試されます。バレエダンサーはオーケストラの音を聞きながら踊りますから、毎回違うテンポになってしまったりは踊る事ができなくなってしまう。私の場合先シーズンまでにここまでの工程を達成しました。

次に与えられる仕事は、オペラもしくは、自分の持ち曲です。私の場合、後者の持ち曲としてバレエ作品をもらったわけです。しかし、ここには特別な事情がありました。通常は初めてもらう持ち曲では、オーケストラの編成が小さく、演奏時間も短めのものを与えられます。

“コッペリア”は大編成のオーケストラで曲も壮大、伝統的には私のような立場ではもらう事の出来ない作品です。この曲は本来第1カペルマイスターが振る予定だったのです。

しかし、8月から来る予定だった新しい第1カペルマイスターが契約を破棄してその席が空席になったのです。つまり、運と実力が重なっての大抜擢だったといつて良いでしょう。幸い、オーケストラ、バレエ団、観客、そして新聞の批評も大変好評で、大成功だったと言って差し支えないでしょう。この業界は一度失敗すると、やり直す事が難しいですから、ほっとしたというのが本音です。”コッペリア”は8公演ありますから、その間にまた多くの経験を積む事ができるのもドイツならではのですね。詳細はこちらを参照下さい

<https://www.stadttheaterbremerhaven.de/ballett/coppelia/>



今回上演のコッペリアの舞台写真
筆者提供



『ミュンヘンでのゼロからのドイツ語』

マインツ 会員 長谷川孔一郎

ミュンヘンでの生活は僕の人生を大きく変えました。ドイツに行く前までは何をしても並な成績しか残せず、悪くはないが飛び抜けて良くもない。そんな自分があまり好きではありませんでした。でも、ドイツでの生活で気づいたことがあります。それは不得意な分野を克服するために労力を使うのではなく、得意分野をさらに伸ばすとかが大切だということ。今まで何をしても平均的であった自分とは決別し、「自分の強みを生かそう！他人にはできないことをやろう」と思えるようになったのです。それから自分に自信が持てるようになり、そんな自分にしてくれたドイツにどっぷりのめり込んでいくこととなります。



ミュンヘン空港に到着し、まだ五月だったので少し寒かったのを覚えています。空港の出口には

雪に書いた München 2013 「Mr. Hasegawa」と書かれたカードを持った迎えの人が待っていました。彼との会話は不思議なことに何も覚えていません。はっきりしていることは英語での会話ということだけです。というのもドイツ語は“ゼロ”の状態でしたので。それは僕がただ単に怠惰だったからではなく、間違ったドイツ語が正しいドイツ語を学ぶ際に障害となり得るからでした。それは日本の英語教育と同じでカタカナで発音し、一度覚えてしまったら本当の発音を学ぶのにより長い時間がかかるといったようなことです。ゼロからの挑戦は初めの頃は確かに大変でしたが三ヶ月を過ぎた頃にはドイツ語だけでコミュニケーションを取れるようになっていました。

ミュンヘンでの一年はあっという間に過ぎて行きました。ホストファミリーにも恵まれ、帰国の際には「日本に帰ってくれるな」とまで言うてくれました。語学学校とホームステイ先にも常に僕の他に二人以上留学生がいたので、世界各地に友達もでき、各地の文化や言葉に触れることができました。

これはとても貴重な経験で旅行では経験し得ないことだと思います。またいつかどこかで会えたらいいなと思います。

これには渡航前に自分で決めたある二つのルールが奏功したかなと思います。

一つ目は、「自分から日本人を探さない」です。日本人といると日本語で話してしまう。これは偏見かもしれませんが日本人は外国で日本人同士でかたまってしまうというようなことも聞いていたからです。僕の今回の留学の目的はドイツ語の習得であって、観光ではなかったからです。わからないことがあれば現地の人に聞く。それもドイツ語を使って。一年間の留学と決まっていたので、なるべく日本語を話さないよう、この短い時間をどのように有効に使えばドイツ語を早く覚えられるかを常に考えていました。

二つ目は、「誘われたら断らない」です。異国での経験はどんな経験もいい経験。日本では誘われてもよく断っていました。しかし、断ることによって一つ、また一つ経験できる機会を失っていることに気がついたのです。それは言葉を覚えるためだけではなく、人を知り、町を知り、そして国を知ることになるのだと。このことを公言していたので、たくさんの人が僕のことを誘ってくれました。何よりも勉強したドイツ語をその場で使える楽しさがありました。



勉強した分だけ理解でき、伝えることができ、これこそが現地でその言語を学ぶ醍醐味ではないかと思います。再び日本の英語教育の話になりますが、授業で勉強した英語を使う機会は少なく、テストが終わってしまえば忘れてしまう。これはすごく惜しいと僕は思います。

そしてこの一年で一番大きく感じたのは「ここドイツで本当に何かを学びたい」ということでした。この時人生で初めて何かについて「知りたい」と思いました。それは効率の良さだったり、合理的な考え方、そして何よりも自由に感じたからです。これが大学進学という次のステップに繋がる第一歩でした。

会員掲示板

「湘南アカデミア 歴史講座のご案内」

会員 西澤英男

ードイツ・オーストリアそして

ヨーロッパの新しい発見ー

ひよんなきっかけから、現江ノ電沿線新聞社会長吉田克彦さんに勧められ湘南アカデミアでの歴史講座を2003年に担当して早くも13年になります。いっとき、NHK文化センターでハプスブルク帝国についての講義を2年余り行い、また湘南アカデミアに復帰、現在まで続けて来ている次第です。

その間、よくもまあ色々なテーマを思いつきお喋りしているものだ和我ながら感心しています。これまでの講座の中身を若干拾い上げてみますと次のようなものがあります。

「世紀末ウィーンを生きた黒い瞳の伯爵夫人ークー

デンホーフ光子をめぐってー」

「ドイツ、オーストリア史 隠れた史実発見」

「ふたりのエリーザベトーさすらいの皇后と赤い大公女ー」等多方面にわたっています。

昨今はハプスブルク帝国と関係の深いフランス、イタリア、スペインについても取り上げ幅を広げています。度々ヨーロッパに取材旅行をして老骨に鞭打って勉強を続け更に色々なテーマに取り組んでいます。

ヨーロッパへこれからお出かけの計画をお持ちの方にもご参考になると確信しております。皆様のご参加をお待ちしております。



ウィーン郊外のマルヒフェルトの古戦場にある石碑。ここで、ハプスブルク・ルードルフ I とボヘミア王オトカル II が戦った。取材で訪ねた筆者

この10月からはヨーロッパ近現代史一名曲で探る歴史の背景ー(～2017年3月)が始まり、10月は「ハイドンの弦楽四重奏曲第77番<皇帝>」を取り上げました。11月からは次のような予定です。

11月29日(火) ベートーヴェン

「交響曲第3番<英雄>」

12月13日(火) チャイコフスキー

「大序曲<1812年>」

1月10日(火) スメタナ 「国民軍行進曲」

2月14日(火) ヨハン・シュトラウス

「ラデッキー行進曲」

3月14日(火) ヨハン・シュトラウス II

「美しき碧きドナウ」

開催日 原則毎月第2火曜日 午後1時30分～3時

会費 16,200円(全6回)

会場 湘南アカデミア

詳細お問い合わせ 江ノ電沿線新聞社

電話0466-26-3028

Deutsche Witze

Hitler besucht ein Irrenhaus, schreitet die Reihe der Insassen ab. Jeder Patient schreit: Heil Hitler!

Nur am Ende der Reihe steht einer ganz still.

Hitler: Warum grüßen Sie nicht?

Der Mann: Ich bin der Wächter, ich bin nicht verrückt.

ヒトラーが、ある時、精神病院を視察した。入院患者が整列しているところを端から列に沿って歩く。入院患者はそれぞれ順々に大声で叫ぶ、「ハイル・ヒットラー！」

列の最後に何も言わず黙って立っている男。

ヒットラー、「君はなぜ挨拶をせんのかね？」

男、答えて曰く、「私は監視人でありまして、精神病ではないからであります。」

(注) 気の狂った人たちがハイル・ヒットラーと叫ぶのであって、まともな人は沈黙を保ったというナチ時代への皮肉

GKK



湘南オクトーバーフェスト 2016 開催

10月9日(日) 15時 ミナパーク

アルプホルンの伸びやかな響きでオクトーバーフェストの幕があがり3時間余、エーデルワイス・トリオの演奏、アムゼルのハーモニー、歌で楽しむドイツ語 (SWZ) の皆さんの

楽しい歌、恒例のダンスそして食事を楽しみました。長年司会を務めて頂いているタベヤさんの結婚を祝う花束贈呈もあり大いに盛り上がりました。

2017 はどのような趣向となるのか楽しみです！



Deutsche Witze

Kunde am Bankschalter: "Sie haben sich gestern bei der Auszahlung um 10.000 Euro geirrt."

"Das kann ja jeder behaupten! Sie hätten das sofort beanstanden müssen. Jetzt ist es zu spät!"

Darauf antwortet freundlich der Kunde: "Schon gut, dann behalte ich das Geld eben..."

銀行の顧客が窓口で、「あなた、昨日、私が預金を引き出したとき 10,000 ユーロ違っていましたよ。」

「そんなことを言うてくる人がよくいるけどねえ！すぐに申し出てくれなくちゃ。今頃そんなことを言っても遅いですよ！」

それに対して顧客は顔を和らげて、曰く、「あ、そんならいいんです。じゃあ、そのお金、私が頂いておきますから。」

(注) ドイツでは概して銀行員がツッケンドンなため、それを揶揄するジョークが多い。

GKK

編集後記

○ご寄稿を中心にして充実した 8 ページの Der Wind をお届け出来皆様のご協力に感謝申し上げます。プレーマーハーフェン、マインツからのレポートは大変興味深いものがあります。ご感想などお寄せ下さい。筆者へお届けいたします。

○「ドイツ小話」は如何でしょうか？次号以降も掲載予定です。ところで GKK とはどなたでしょうか？ヒントはドイツ語講座のあるコースにあります。皆さんも参加してみませんか？

○11月には藤沢、鎌倉の恒例の国際交流フェストが開催され、湘南日独協会もブースを持ちまた鬼久保理事率いる「ダンケシェーン」がアルプス音楽を演奏しました。次号にその模様をお知らせします。

○今年最後の会報となりました。2017 年はさらに充実した内容の会報をお届けしたいと考えています。早めではありますが・・・

**„Frohe Weihnacht und
ein glückliches neues Jahr!“**